



<個人株主の皆様>

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

6月25日定時株主総会に、前年の3倍を上回る多くの方にご出席いただき、誠にありがとうございました。また、総会後の説明会では、暖かい激励のお言葉も頂戴し、大変感謝しております。株主の皆様からの新たな付託を踏まえ、社長以下、社員一同、新たな気持ちで研究開発および事業開発に取り組みますので宜しくお願い申し上げます。

弊社の抗がん剤開発の関連では、6つの臨床試験が順調に進行中です。ナノプラチン® (NC-6004) については、アジア地域 PIII 試験（膵がん）、米国 PIb/II 試験（肺がん）、日本 PI 試験（固形がん）の臨床開発プログラムを進めております。さらに、本年5月には、ダハプラチン誘導体ミセル (NC-4016) の米国 PI 試験、エピルビンシメル (NC-6300/K-912) の日本 PI 試験実施のための届出をそれぞれ提出しました。また、将来に向けての開発ポートフォリオを生み出す新規開発パイプラインも順調に研究が進んでおり、先日発表した3つの核酸デリバリーシステム (NanoFect™) の確立はその代表的な例であります。siRNA など核酸治療分野で多くのグローバル製薬企業やバイオ企業が挑戦し、成し遂げることができなかった画期的な成果であり、将来は iPS 細胞などに関わる遺伝子導入や再生医療にも役立つものと考えております。以上を含め、各プロジェクトの進捗については、随時、ご報告して参ります。

先日、ウイズ・パートナーズ社による第8回新株予約権行使完了により、新たに5億7千万円の資金を調達致しましたが、同社が内外の機関投資家に新株予約権行使分相当の株式を売却したことにつき「個人株主様を軽視する行為」とのご批判をお受けすることがあります。しかし、個人株主の皆様は、当社株式の約60%を保有されており、上場以降、当社の成長を支えていただいた方々であることを常に感謝しており、決してそのような考え方に与するものではありません。投資対象企業の成長・企業価値を基準にして、中長期に株式保有を判断する内外の機関投資家に当社株式保有の層を拡大することは、当社に対する市場の信認を拡大することであり、個人株主の皆様にもプラスの評価をいただけるものと考えております。

昨年、ウイズ・パートナーズ社から37億円超の資金調達を行うにあたり、同社から社外取締役を受け入れる“ハンズ・オン”と呼ばれる形で当社の経営に参画し、最も優れた成長を目指す上で、財務基盤、経営基盤全般の強化などを含め、当社の企業価値増大に貢献いただいております。個人株主様に対しては、上述同様の考えを当社と共有しておりますことを、ご理解のほどお願い申し上げます。

当社の今後の成長・事業拡大のためには、個人株主の皆様の温かいご支援を筆頭に、提携先企業、研究機関、医療機関や機関投資家など、幅広い関係者のご理解とご支援が必須と考えております。

株主の皆様、一人一人の深いご理解と強い支援を頂けますよう、宜しくお願い申し上げます。

2013年7月15日  
代表取締役社長  
中富一郎